

◆ 2024 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 ジョイライフさやま

27A-01

代表者：代表理事 内田 貴夫

URL : <https://www.joylife-sayama.info>

1. 活動が必要とされた状況



人の手が入らず荒れ果てた河川敷は、人の目が行き届かず、投棄、残置の陸ごみが河川内に流入し、川や海の美しい自然が失われる原因ともなっています。河川敷は各市にまたがり、地域だけでは不法投棄問題を解決することができないのが現状です。清掃することにより、人の健康や快適さ、安全性を維持するための作業ともなり、川と生き物を守るきっかけを作ることにも繋がっていきます。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）



根が浅く強風で倒れやすいハリエンジュは防風林として各地に植えられましたが、整備地にある木々も台風などにより倒れ、河川敷の機能低下を招く可能性があり、伐採しなければならないという課題に直面しています。

一方で、春を過ぎた若葉の季節になると白い房状の花を垂れ下げ、満開になると辺り一面甘い香りを漂わせ、リラックスさせる植物でもあります。

年間 160 名ほどが整備に当たりました。

3. 活動の成果



持続可能な環境を支える生物多様性の保全やごみの流失問題の解決に向けて、河川敷の整備清掃を更に進めています。子どもたちを交えた環境保全の大切さを伝える自然体験活動は、ごみ問題を肌で感じることができるほか、ごみの流失を防ぎ、川や生物を守るきっかけを作る活動にもなり、将来を担う地域の子どもたちに受け継がれる環境を作り出しています。

各体験参加者は、年間 250 名ほどになります。

4. 今後に残された課題



良好な河川環境の保全への取り組みとして、まずは地域の皆さんに知ってもらうことが、ごみの不法投棄をなくす第一歩であり、街づくりと連携した河川整備を進めていく必要があると思います。地域を盛り上げる方法と活用を進めるカギとなる団体や人づくりも重要で、入間川サポーター制度により情報発信や交流の場を創出し、上下流が交流できる仕組みが必要だと感じています。